

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

多感な中学生の障害理解授業の感想

9月9日（金）、秋田北中学校1年生（99名）の総合的な学習の時間に、「心のバリアフリー」というテーマで障害理解授業を行いました。内容は、①天王みどり学園の紹介、②障害の捉え方、③4つのバリア、④楽しい体験や演習でした。メモを取りながら真剣に取り組む生徒の姿に圧倒されました。事後学習で生徒が書いた振り返りシートを紹介します。

〈心に残った言葉〉

- お互いの多様性を認め合い、助け合いながら付き合っていくことが大切。
- いろいろな人がいるんだということを知ることが心のバリアフリーの第一歩。
- 多数派は少数派の大切なことが見えなくなる。
- 生きている一人一人がかけがえのない存在。• 思いを相手に聞こえるように、見えるように。
- き（気付く）こ（声をかける）う（動く）



〈講話を聞く前と聞いた後での心の変化〉

- 「障害者は特別な存在だ」という思い込みが多かったけど、話を聞くうちに「障害者にもできること」や「障害者にしかできないこと」などが初めての発見がたくさんありました。また、「障害者は何も一人でできない」という勝手な思い込みもいけないことだと学びました。
- 障害者と聞くと近づきにくい……。どうすればいいの……。?とってしまい、関わろうとは思えませんでした。でも、障害のある人もない人も「同じ人間」です。だからこそ差別せず自分から障害者であっても声をかけるなどしてみようと考えることができました。
- 「一人一人がかけがえのない存在」という言葉を聞く前は、自分なんて死んでも変わらないとかマイナスな考えをもって生きてきました。でもこの言葉を聞いた後は、「命」の大切さに気づき、今、生きていることに感謝しながら生きていきたいと思いました。
- 初めは勝手な思い込みや戸惑いがあり、助けられないことが日常の中でよくあります。今回の講話を聞いて、たくさんの人からの支援など、今まで思っていたことと違うことを知ることができて、この後思いがけない所で人を助けたりできると思い、よかったです。

〈分かったこと・今後の生活に生かしたいこと〉

- 天王みどり学園は実際どのような場所で、どのような活動をしているのか全く分かりませんでした。でも今回の講話を聞いて「できることは時間がかかっても一人で」という考え方があることを知り、驚きました。私は今まで「できなことを手伝ってもらおう」ことが障害者だと思っていたからです。そして、私もいつ、何に巻き込まれて障害を抱えるか分かりません。障害者になってから気付くのではなく、今、健全な状態だからこそ気付くことがたくさんあると思います。これからの社会には、主に「文化、情報のバリア」や一人一人の「心のバリア」がとても大切になってくると思います。一人一人が障害者のことを知り、勝手な思い込みをしないことが本当の思いやりであり、優しさであると感じました。
- 障害者がいてくれるからこそ私たちが生きている。人間という同じ立場であるのに、多数派と少数派に分けられることによって差別が生まれてしまう。これからの世界では「多様性」を認め合い、お互いを知ることが大切になってくると思います。
- 障害は誰にでも起こり得ること、障害者とともに互いの違いを認め合える共生社会が必要なこと、障害者と共同作業を通してお互いの気持ちを考えること、いろいろな人がいるんだということが分かりました。